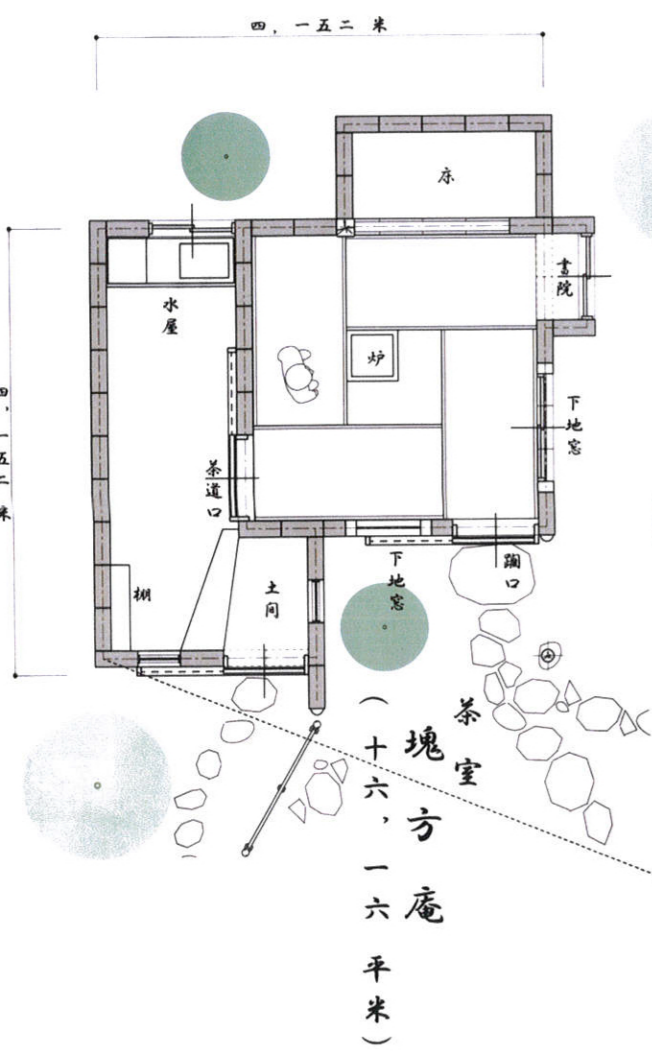
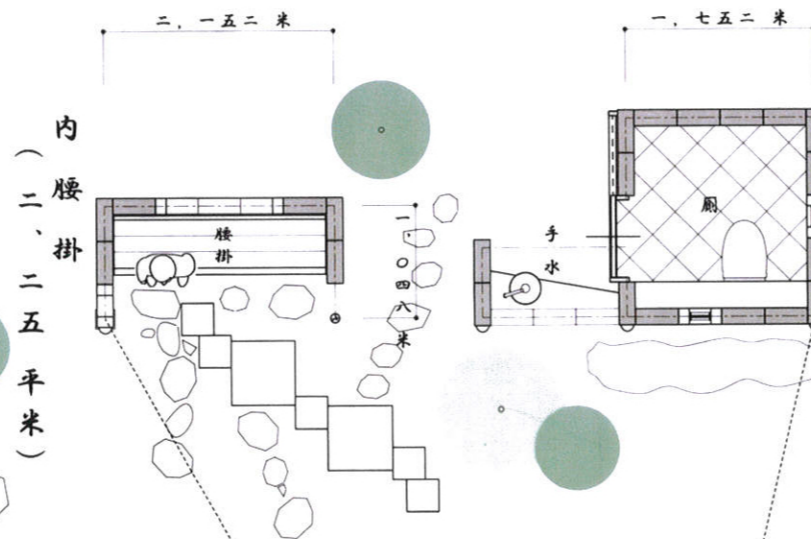
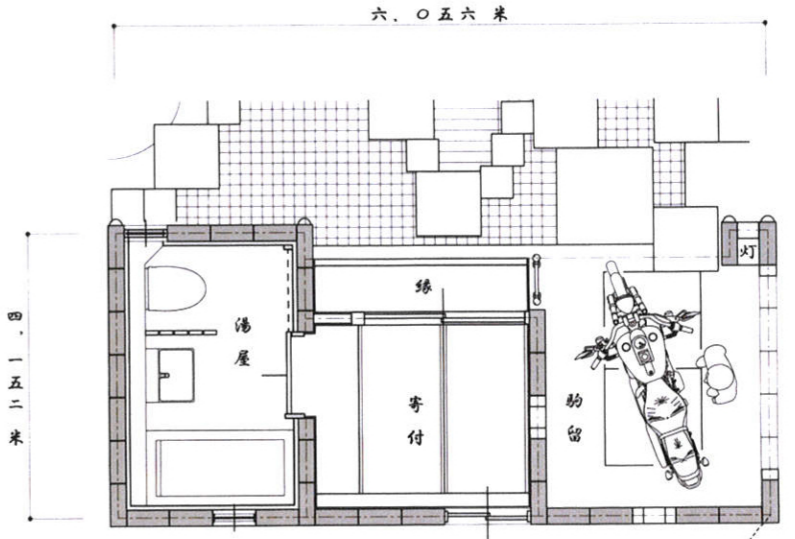
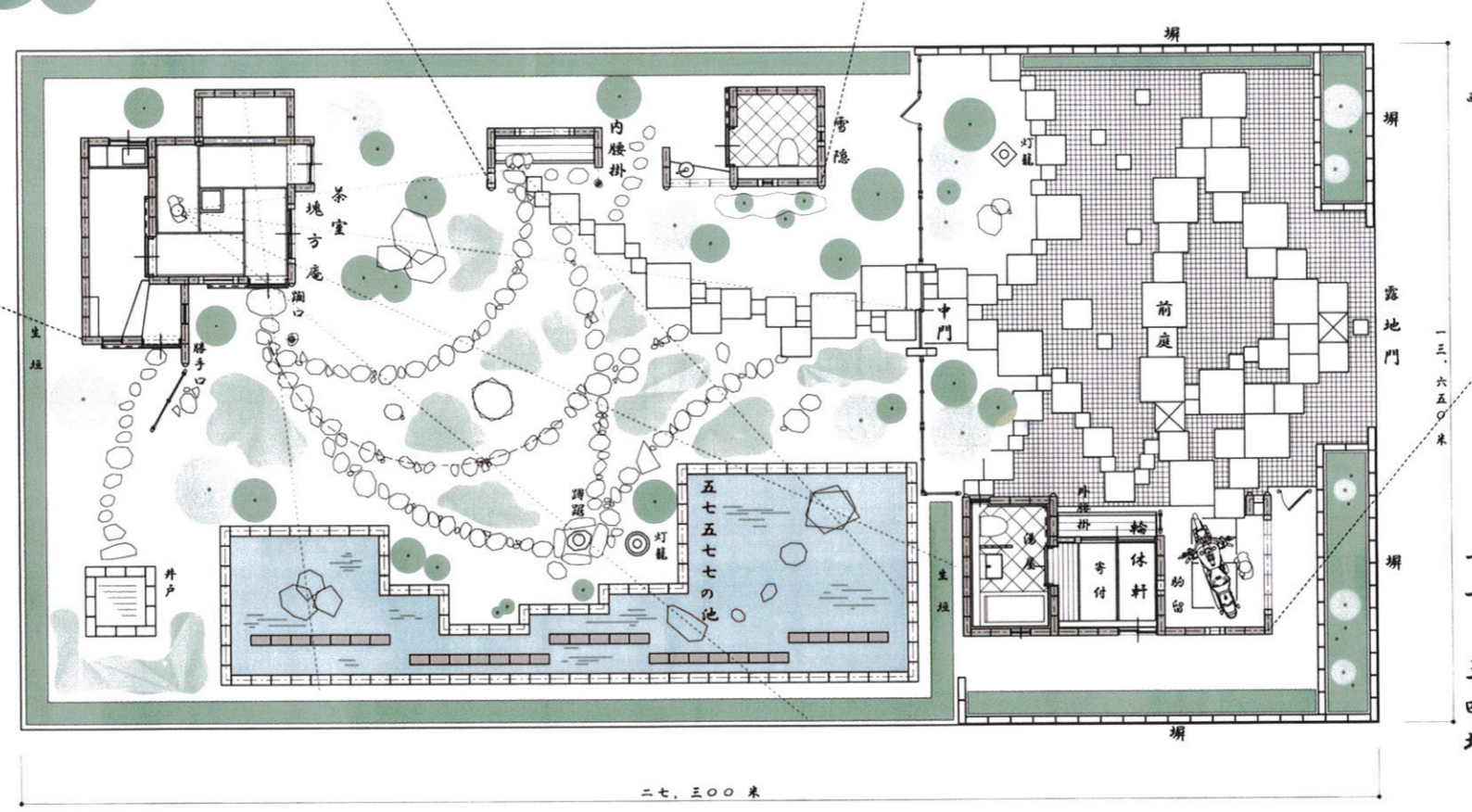


寄付
輪休軒
(十五、〇五平米)



平面図寸法：一／五十



北
十
南

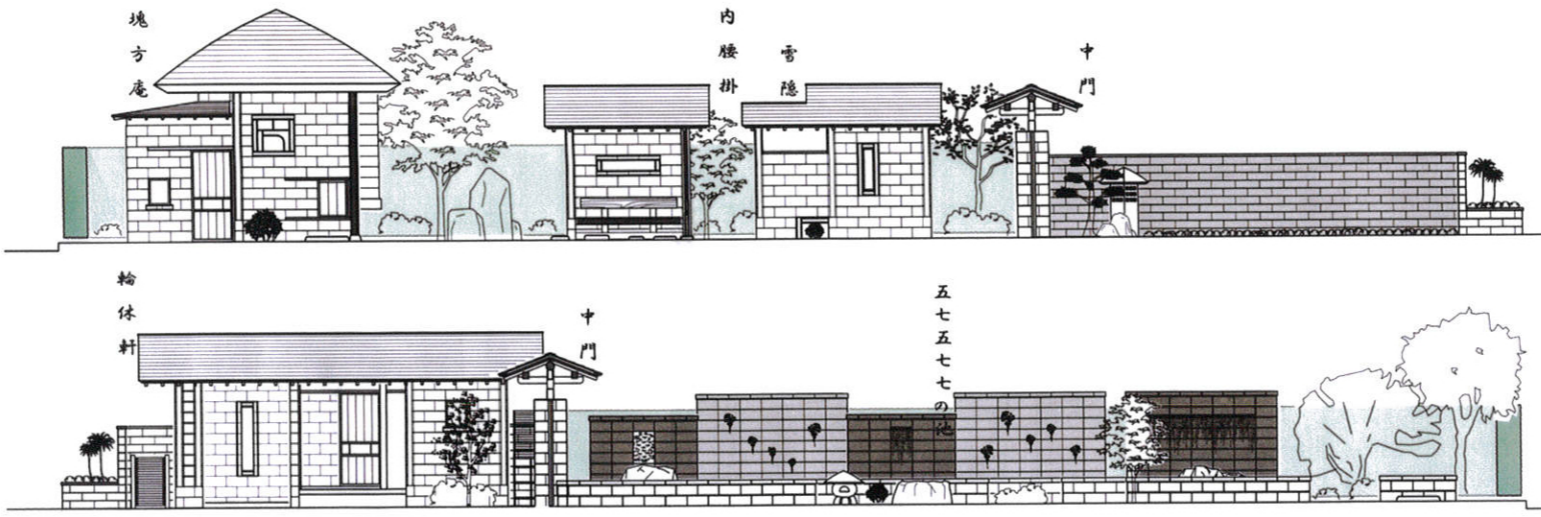
配置図寸法：一／百
延べ床面積：三七、五七平米
十一、三四坪

石女舞成長の庭

石女舞成長寿曲 本人唱起太平歌

「禪語より 石で作った女が長寿を祝う曲を舞い
木の人形が平和の歌を歌い上げる」
「分別や常識を超越した自由な庭として」

立断面図寸法：一／百



一亭一客から 後の世の 民の拠り所としての庭

客人通き所より 狭馬を駆って 輪休軒に来たる 亭主庭を浄湯を沸かし 心鎮めて客人を待つ
客人 寄付にて旅からの身を整え 中門をくぐる 俗世を離れ 己のうらと自然に向き合う庭を巡り
きのうまでときようからと 五七五七七の池の水音に うたを想う
塊方庵へ 真を澄まし 茶をのみ ところ解き致す
堅牢なるその庭は 厳しい道のりを歩いてきた客人の ここを意にし 明日の光を願う時を予える

作者のおもい
先の大戦を経て、豊かさを築くのに必須の村であったコンクリート、ブロック化されることにより、日本のいち早い近代化へ、どれだけ貢献してきたであろうか、

それでも地震国日本は、立ち直ったかに見えた園土を戦後となく揺すられる、
そうした中で、コンクリートブロック造の建築物は、産物と化しながらも、その堅牢が故の性質により、
一瞬でも、たとえ一部でも次の世代を長く人々の拠り所として機能したのではないかと、
古に学び、またそこで火を焚き、水を蓄え、明日の糧を揃えて、ただ一人からでも成し得ますように、
追記：使用を想定したコンクリートブロック村は国土交通省認定の擁壁、構造用ブロック、

なまこ壁状にブロックの小口部分に漆喰を施すことにより、鋭角を印象を和らげたり、
ブロック内の鉄筋を露出することで、茶室に見る和の意匠の可能性を探ってみた、
建物をブロック分けし池を設け、次の時代に向けての合築や用途変更も視野に入れた、

平成二十六年 長月吉日

